

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）

指標の名称		単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）							
指標名	イベント開催数	目標値		1	1	1	1
		実績(見込)値	0	1			
指標名		目標値					
		実績(見込)値					
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）							
指標名	イベント参加者	目標値		250	270	290	300
		実績(見込)値	0	250	270	290	300
		達成率	0.0 %	83.3 %			
指標名	AED設置数	目標値		170	175	180	185
		実績(見込)値	162	170	175	180	185
		達成率	87.6 %	91.9 %			

5. 事業評価

(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。

平成27年度は、関東・東北豪雨により、イベントが中止となった。

(2) 項目別評価

評価項目・客観的評価				理由
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	救急蘇生法や防災意識の啓発のためには、欠かせない事業である。
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	結城市、結城市医師会、結城消防署等関係機関での共催は理想的である。
	手段の妥当性	B	どちらとも言えない	イベント実施については妥当であるが、実技方法等は検討の余地がある。
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	消防署と健康増進センターとの役割を明確して連携する必要がある。
公平性	受益者の偏り	B	どちらとも言えない	AEDを設置している事業所等に開催案内を送付しているが、イベント開催について、さらに幅広く市民へ周知する必要がある。
有効性	成果の向上	A	上がっている	救急医療や防災に関する意識は高まっている。
進捗度	事業の進捗	A	順調である	救急の日・市民の集いイベントは、市民に定着しつつある。

(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。

本イベントは、救急医療及び救急蘇生法について学ぶ機会となるため開催の意義は大きく、市民からの期待も高い。毎年、参加者が250人前後であるため、救急蘇生法の実技等を工夫する必要がある。さらに、参加者の層も固定傾向にあるため、多くの方が参加できるよう開催についてPRする必要がある。

(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？

救急の日・市民の集いイベントに関しては、国・県でも実施している事業であるため、結城市でも継続すべき事業である。イベント内容に関して、救急医療や救急蘇生法のみにとどまらず、市民の身近な内容(救急車の利用法や応急手当)も盛り込み、イベント内容を発展させていく必要がある。また、内容を充実させることにより、一般参加者の増加を見込んでいく。

6. 事業の方向性判断

評価主体	28年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う	現状のまま継続 (改善・改革なし)	注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う	現状のまま継続 (改善・改革なし)	引き続き関係機関との連携を図りながら、市民のニーズに即したイベント内容で開催する。
(3) 最終評価 企画調整会議において 評価を行う		上記評価のとおり。